

◎第3回上下水道事業審議会

○審議会名 杵築市上下水道事業審議会

○会議名 第3回杵築市上下水道事業審議会

○日時 令和4年6月9日(木) 14:55～17:05

○場所 杵築市役所本庁舎2階第2会議室

○出席者 (委員)

長崎会長、糸永副会長、神鳥委員、土谷委員、平川委員、佐々木委員
小笠原委員、興田委員、内野委員

(事務局)

矢野上下水道課長、河野上水道管理係長、平田上水道工務係長、小川下水道
管理係長、田代上水道管理係主査、佐藤下水道管理係主査

○議題

1. 水道料金と料金算定の仕組みについて
2. 料金改定の検討手順について
3. 算定要領に基づく新料金体系表について
4. 経営目標について
5. 統合簡易水道管路施設更新の方向性について
6. 水道事業経営の主な数値に係る料金改定シミュレーションについて
7. 今後の料金の見直しに関する基本事項について

○会議の内容

1 会長あいさつ 長崎会長

2 議事 委員9名が出席しており、委員数の過半数に達していることから会議が成立している旨を事務局より報告、また、上下水道事業審議会条例に基づき、長崎会長を議長として議事を進行了た。

(前回の審議内容の確認を事務局より報告した)

1. 料金改定率のシミュレーション再検討について

2. 管路更新工事費について
3. 料金の定期的見直し期間（3年から4年へ）の変更について

（事務局より議題に沿って説明があり、以下のとおり質疑応答となった）

【質疑応答】

1. 杵築市水道料金と料金算定の仕組みについて（資料2）
2. 料金改定の検討手順について（資料3、図表1-1）

（委員A） 水道料金の見直しについて、3年から4年に見直すとのことですが本当に4年毎に改定するのですか。

（事務局） 4年毎に改定するのか、8年ぐらい先をみて次の改定を行わないようにするのは今後の審議の中で様々な意見が出るとは思いますが、料金算定期間内の収支が赤字にならないようにしていく必要があると思います。その後も同じような考え方で財政収支のシミュレーションにより検討していくことがよろしいかと思えます。

（議長） 経営戦略の見直しは定期的に行っているのですか。

（事務局） 経営戦略については、現在料金改定の検討を行っている最中であり、現行の財政シミュレーションにより作っています。料金改定が決定すればそれを加味した最終的な経営戦略を作成します。経営戦略は概ね5年に一度見直しを行うものであり、今後は4年毎の料金改定の見直しに併せて経営戦略についても見直していきたいと考えています。

【質疑応答】

3. 算定要領に基づく新料金表体系表について（資料4）
4. 経営目標について（資料5）

（議長） それでは、議事の（3）、（4）につきまして、ご意見をお願いします。

（事務局） 説明の補足をいたしますが、事務局としても今後、議会や市民の皆さまに説明する中で、料金を5%、10%上げましたとなった時に、根拠がなければ説明できないことから、料金の見直しは財政計画の収支見通しから料金算定の基礎となる費用を積算し、適正な料金水準を算定する手順で行っています。総括原価が何かといってもなかなか分かりにくいのですが、総括原価イコール料金収入になります。そうすると純利益がゼロ、儲けがゼロになってしまいますので、資産維持費をプラスする。その総括原価を基本料金と従量料金に割り振っていきます。

す。この算定方法は（公）日本水道協会発行の「水道料金改定業務の手引き」に沿ったものです。

（委員B） 杵築市は用途別であり、口径別に移行したいということだが、これは全部一律になるのですね。従量料金が。

（事務局） 今回の段階では、料金を分解し配分した結果、この料金表ができています。ただ、通増については協議をしていませんので、今後、詰めさせていただきたいと思います。

（委員B） 工業用は利益を生むために水を使うのですよね。一般用はそういう考え方ではないですよね。次回はそのところを説明するのですね。

（事務局） 現行の料金表に分けているような形で用途別、口径別を分けて比べることもできますから、次回検討していただきたいと思います。

（委員B） 杵築市としては口径別にしたいということによいですか。

（事務局） 実際、口径別にした時と用途別にした時にどれくらい違いがあるのかということも、事務局が口頭において口径別にしてくださいというよりも、実際に料金表を見比べていただいた方がよいと思いますので、次回検討をお願いします。

（議長） 今日の議論はあくまでも基本料金と従量料金部分にどうやって振り分けるかというところまでということによいですか。

（事務局） 今日は料金を決定するにあたりどういうふうに算定していくのか、その根拠についての説明で、実際に料金の決定、料金表にはいろんなパターンがあることから、次回はモニターを使用して料金がどのように計算されているかをご説明したいと思います。

（議長） 他になれば次の議事に移ります。

【質疑応答】

5. 統合簡易水道管路施設更新の方向性について（資料6）

（議長） 統合簡水の工事費につきましては、年5,000万円との提案です。委員の皆さまのご意見はありませんか。ないようですので、(6)、(7)の説明を事務局より説明願います。

【質疑応答】

6. 水道事業経営の主な数値に係る料金改定シミュレーションについて（資料7）

7. 今後の料金の見直しに関する基本事項について（資料8）

（議長） おおまかな経営目標として純利益を黒字化、累積欠損金を解消、内部留保資金を概ね4億円確保、それを実現できる料金改定率がどのあたりかということだ

す。結論から言うと19%水道料金の値上げをすれば全て達成できるということですが、ご質疑等あればお願いします。

(委員C) 前回のときに10%とか20%とか数字を出してきたが、個人的には良くないと思います。年内には1万品目を値上げしようかという時期ということもあるので、できるだけ抑えて、そして令和8年度までということではなく、10年ぐらいのところまでで考えた方が良く思うのですが。

(委員D) 経営目標が3つありますね。純利益と繰越欠損みたいな料金で、減価償却を計上しても損益が変わるだけでキャッシュフローは関係ないと思います。だったらこの3つの目標のうちどれを順番でクリアしていくのかという優先順位があるのではないかと思います。今これだけ物価が上がり値上げしており、水道料金も値上げすべきとの選択しかないと思いますが、どこが落としどころかということです。そのためには全てを一気にするのではなく、段階的に行っていくのも良いかと思います。

(事務局) 3つの経営目標の優先順位ですが、仮に優先順位をつけるのであれば、累積欠損金の解消だと考えています。料金改定は当然ですが損益を黒字化していく。そして赤字の累積を次の期間に持ち越さないというのが原則的な考えだと思います。その考えであれば令和8年度末に累積欠損金が残るような状態は、料金改定としては適切とはいえないという考えによるものです。

(委員D) 時期的に全てが値上げの時期になっており、市民生活の視点からみたら水道料金も値上げかというのが市民感情だと思いますが、これまでの説明を聞けば15%が妥当な線なのかなと、将来のことを考えた時に今回15%ぐらい上げておけば、累積欠損についても損益についてもある程度の水準は確保できるのかなと思います。

(事務局) 経営目標について損益以外はクリアしています。13%を見てもらうと4億の目標に対し4億2,700万たまっています。令和8年がマイナス2,000万ですが、内部留保で補うという考え方をすれば何とかクリアできるのではないかと思います。

(議長) これまでの議論を集約しますと、最初20%程度の値上げはやむなしということで、前回の会議結果でありましたが、10%、20%では段階が大きすぎるということで、もう少し詳しく今回は見えてきました。その中で、19%であれば経営目標を全て達成できるのですが、昨今の物価上昇の折、19、20%近い上昇ということであれば、市民生活の影響が非常に大きいという点がございます。あと一点、最低限のレベルの13%であってもその料金算定期間が終わるとすぐに累積欠損金が発生するということが目に見えている状態であるということも適正ではないので、15%ぐらいが妥当ではないかと考えていますが、事務局にお聞きしますが、何パターンか準備しているというお話がありました。これを二つ

ぐらいに絞りこむということによろしいですか。

(事務局) パターンを決めていただければ、その%で料金表の中に落とし込んでいきます。

(議長) ひとつは15%、もうひとつはどうしましょうか。

(委員D) 13、15、19%でよろしいのではないのでしょうか。

(議長) それでは三つ。事務局よろしいですか。

(事務局) わかりました。

(委員B) 17%で良いのではないですか。

(委員D) 19%であれば、経営目標を全てクリアする条件になっているし、将来のことも考え、次回に大幅な値上げにならない可能性もあるので、一度シミュレーションをして参考になるのではないかというのが私の意見です。

(議長) 15を挟んで2%ずつでよろしいのでしょうか。それでは13、15、17%の料金表のシミュレーションをお願い致します。

次回は6月20日(月)午後3時でお願いします。

3 閉会